

<江戸まち散歩> 鬼平と密偵たちが歩いた森下～深川を巡る

日時:2019年5月15日(水) 天候:曇りのち晴れ 18000歩 約13km

集合:JR総武線両国駅西口 10時

コース:両国駅→隅田川テラス→回向院→本所松坂町公園→両国公園・勝海舟生誕地碑→軍鶏鍋「五鉄」跡→菊川公園→長谷川平蔵・遠山金四郎旧居跡→中和公園→五間堀跡→のらくろ館→万年橋→ルビアン→清澄公園→霊巖寺→江戸深川資料館→富岡八幡宮→東西線門前仲町駅

参加者:小島(L) 勅使河原(SL) 班長=桑名 赤須 長廣

平嶋 常盤 神谷 熊坂 奴田 高橋文 小野里 青松 熊島 佐藤繁 小林 清水正 山川 市村 桑原 志村
中林 脇坂 上田 鈴木孝 吉田 飯田 鈴木美 計28名

江戸墨引の東端、森下～深川界限はさすがにディープな場所。時代は異なるも、そこここに名所・旧跡が点在しています。今回は池波正太郎の代表作「鬼平犯科帳」の中で、密偵たちの拠点とも云うべき軍鶏鍋屋「五鉄」跡から、当時の交通手段でもある小舟が行き交った、堅川・小名木川・仙台堀等の風情を味わいながら、深川のランドマーク富岡八幡宮までのんびり散歩となりました。年号が「令和」となり昭和の時代はまた遠くなりましたが、下町にはまだまだ古き良き時代の名残が見受けられます。森下文化センターには、戦前・戦後を通して人気を博した田河水泡の「のらくろ館」があり、貴重な資料が展示されており、この先の高橋夜店通り商店街は通称「のらくろロード」とも。川船番所があった万年橋を渡ると、パン工場ルビアンの直売所が。午後なので人気のパン類は売り切れも、ここで暫しお買い物タイム。ここから清澄庭園を見て江戸深川資料館へ。下町深川を再現した屋根の上で、猫がニャーと鳴いてお出迎え！むろん、これは作り物。見学を終えて歩き出すと、4年前のウォークでランチをした深川めしの「福佐屋」の前に・・・この日は午後なのですでに暖簾は出てなかった。(一日20食限り)

ここから仙台堀川に架かる木更木橋を渡り、深川八幡宮に立ち寄り、東西線門前仲町駅で解散となりました。

<フォトレポート 小島>



両国公園・勝海舟生誕の地碑の前で。勝さんもこの椅子に座って思索に耽っていたのかも知れないですね。(この椅子、二人で座るとそれぞれがスリムに見えますが・・・斜め座りのせい、はたまた目の錯覚か?)



朝の両国駅西口。大相撲開催中で力士の姿も見られた。傍で外人Gが力士と写真を撮る時、ハイ「チーズ」！これって万国共通なのか？



隅田川テラスで熊坂さんのストレッチ後、コース解説。ここで主要ポイントの説明をしたが電車の音が煩い。鉄橋からもっと離れた場所でやるべきだった！



説明がやや長くなったがスタートです。



対岸には前回の江戸まち散歩で見た緑色の「柳橋」が。



今日唯一の階段を上がると・・・



両国橋東詰めに出ました。



猪鍋で知られる「ももんじや」



本日最初のポイント「回向院」へ。



門を入ると一転して静寂の世界に。



物故力士供養の「力塚」が。



愛犬・愛猫の供養碑。



これも犬・猫の供養塚。



武本義太夫の墓。



鼠小僧の供養塔は削られている。



猫には猫好きな人が分かるようです！

●回向院：

振袖火事（ふりそでかじ）と呼ばれる明暦の大火（1657年（明暦3年））の焼死者10万8千人を幕命（当時の将軍は徳川家綱）によって葬った万人塚が始まり。のちに安政大地震をはじめ、水死者や焼死者・刑死者など横死者の無縁仏も埋葬する。あらゆる宗派だけでなく人、動物すべての生あるものを供養するという理念から、軍用犬・軍馬慰霊碑や「猫塚」「唐犬八之塚」「オットセイ供養塔」「犬猫供養塔」「小鳥供養塔」、邦楽器商組合の「犬猫供養塔」（三味線の革の供養）など、さまざまな動物の慰霊碑、供養碑、ペットの墓も多数ある。著名人の墓として、山東京伝、竹本義太夫、鼠小僧次郎吉など。

1768年（明和5年）以降には、境内で勸進相撲が興行された。これが今日の大相撲の起源となり、1909年（明治42年）旧両国国技館が建てられるに至った。国技館建設までの時代の相撲を指して「回向院相撲」と呼ぶこともある。1936年（昭和11年）1月には大日本相撲協会が物故力士や年寄の霊を祀る「力塚」を建立した。



境内の見学を終え、来た道に戻ります。（裏門閉鎖中）

横にはかつて国技館がありましたが今はビル群に。

※旧国技館は、天保4年(1833)から回向院で相撲興行が始まったことから、明治42年に、その境内に建設された。ドーム型屋根の洋風建築で、開館当時は両国元町常設館という名前でしたが、翌年から国技館という呼び方が定着し、戦後は米軍に接收され、返還後は日大講堂などとして利用されていました。両国シティコアビル中庭の円形は、当時の土俵の位置。



次は皆さんご存じの本所松坂町公園吉良邸跡です。



今は猫の額ほどですが、当時は広大な屋敷でした。



吉良邸を出ると時津風部屋があります。



その角には芥川龍之介の文学碑が。



校名が勅亭文字！



両国公園は勝海舟の生誕地。



咸臨丸のイメージオブジェ。



令和の勝海舟！海舟に怒られる？



※勝海舟は、現在は両国公園となっている当時男谷精一郎の屋敷で生まれた。海舟が生まれた後、父の勝小吉は、男谷家を出て、南割下水の天野右京、次いで出口鉄五郎の敷地に移った後、本所入江町の旗本岡野孫一郎の敷地に移った。本所での生活では、この入江町が一番長く、8歳から23歳まで住み、地主の岡野とは深いつきあいになり、のちに海舟が妻をもらう時に、一度岡野の養女にしてから結婚しています。ちなみに海舟は、22歳の時、弘化2年(1845)に結婚しています。妻の名は民子と言ひ、2歳年上で、深川の芸者でした。そこで岡野孫一郎の娘ということにして結婚しました。



二之橋の袂には鬼平犯科帳の中で密偵達の拠点となっていた軍鶏鍋「五鉄」跡があります。小説によく出る店。

★鬼平犯科帳の時代背景：

長谷川平蔵が火付盗賊改方長官であったのは1787年(天明7年)から1795年(寛政7年)まで。1783年(天明3年)の淺間山大噴火や折からの大飢饉による農作物の不作により、インフレが起こる。各地で打ち壊しが頻発し、世情は酷く不穏であった。田沼意次の失脚(1786年(天明6年))を受けて1787年(天明7年)に松平定信が老中に就任。寛政の改革が始まったが、このような経済不安から犯罪も増加し、凶悪化していった。(長谷川平蔵が火付盗賊改の長官となったのは同年10月)

そのため町奉行所だけではこれに対応できなくなった。そこで生まれたのが「火付け盗賊改め」で、これは今で言う東京地検の特捜部に該当し、その長官は特捜部長。徳川幕府の先手弓組や先手鉄砲組などが兼務し、これを「加役」という。部下には与力10騎、同心50騎が配属。長官の自邸(菊川1200坪)が役宅となり、白洲や牢獄が設けられた。長谷川平蔵宣以は、寛政7年(1795)、50歳の時に病気になるここの屋敷で亡くなりましたが、亡くなる直前まで火付盗賊改を続けていますので約8年間火付盗賊改だったこととなります。火付盗賊改は、通例でも2~3年で、長いといっても3~4年ですので、これは異例のことです。なお平蔵の父親は京都町奉行を務めていたが、その死後先手弓組頭となり火盗改の長官に任命された。

鬼平の功績として名高いのが、社会復帰に向けた職業訓練の機能を持つ、当時としては先進的な更生施設「人足寄せ場」の設置だ。隅田川を挟んで向かいの佃島がその場所選ばれた。現在の佃島は超高層マンションの「大川端リバーシティ21」をはじめ、高級マンションが立ち並ぶエリアとなっている。



安兵衛公園に到着です。



ここには堀部安兵衛の道場があった。





ランチ場所の菊川公園に到着。



ここは菊川小学校の校庭と共用する珍しい公園です。



前日の予報では雨が心配されたが、幸い晴天に恵まれ、木洩れ日を浴びてのランチとなりました。



今回は珍しく各テーブルは男女混成！



中には女性を“寄せ付けない”強者も？



午後の部は長谷川平蔵の旧居跡へ。



平蔵の役宅は1200坪ほど。敷地内には白洲や牢獄、同心たちの長屋もあったそうです。



この中和公園も中和小学校との共用公園でした。



次は弥勒寺へ。鬼平では門前にお熊婆の茶店があった。



当時はかなりの寺領があった。



杉山検校の墓がこことは・・・



筆塚。筆供養でもあるのか。



雰囲気を残す五間堀公園。



堀幅が五間だったのでこの名が。



その昔なら全員水の中です。

●「寒月六間堀」 鬼平犯科帳（7） 文春文庫より

※彌勒寺・五間堀・茶店が出てくる小説の一節です。

「鑊つあんよう。取って喰おうたあいわねえから、寄って行きなよう」 大声に呼びかけるので、実にどうも閉口したものだ。

盗賊改方に任じてから、平蔵は二度ほど[笹や]をおとずれ、婆さんと旧交をあたためていた。

お熊のような婆さんは本所・深川界限の裏の裏まで知りつくしているし、何かにつけて[ききこみ]を得ることもあろうかと、平蔵

は考えたからである。「此間、亀戸村で大捕物があったとねえ。また、お手柄かい？」 お熊は早くも[泥鰌の和助一件]を耳

にはさんでいたらしい。「なあに、大したことはない」

いいさして、お熊が出してくれた茶をのみかけた長谷川平蔵が何気なく、彌勒寺の南、五間堀にかかっている彌勒寺橋の

たもとを見やって、（や……？） きらりと、眼が光った。



森下文化センター内の「のらくろ館」を見学。



戦前～戦後を通して大人気を博した漫画です。



田河水泡の書斎を再現した部屋。



のらくろ人形。



熱心に見学中・・・戦前生まれの方？



高橋夜店通りを行くKWC一行。暑くなってきた。



別名「のらくろロード」とも。でも侘しそう。



さすがに森下、平蔵が出て来そうな粋な飲み屋が揃っている。アフターはここが良いって・・・誰だ？





萬年橋北詰に着き、早速座り込む女性軍。



疲れた足で小名木川に架かる橋を渡る。



パンのルビアン工場直売所。買い物組と休憩組でお疲れ様です。あと少しなのですが・・・男性軍はバテた？



清澄庭園に入りました。鏡の様な水面です。



足元にはアオサギが。逃げる気配なし！



霊巖寺に立ち寄ります。木々の緑が爽やか。



ここには寛政の改革で知られる松平定信の墓所も。



深川江戸資料館を見学することに。団体割引適用！



係りの人から館内施設は何処も出入り自由にとのこと。



入ると早速屋根の上の猫がニャーンとお出迎え！



■米屋の店先：「ご新造さん、今日はどのくらい？」

「そうねえ、一俵ほど貰おうかしら」「えっ、俵を担いでお持ち帰り？」 ※注：奥の番頭さんは似合い過ぎ！あれ誰？



●猪牙舟（ちょきぶね）

茶船の一種で、船首を鋭くした水切りのよい軽快な小船。普通船頭1人で漕ぎ、江戸では吉原通いの山谷船として有名であるが、その軽便な点を利用して小荷運送や磯漁にも使われた。語源は、船首を猪（いのしし）の牙のように長く突き出しているためであるというが、別の説もあって定かでない。関西では「ちよろ」という。

←館内には深川辺りで使われた猪牙舟が舫ってある。



背景は朝・夕で空の色が変わる凝った作り。



表店の裏には九尺二間の長屋があった。



資料館の見学を終え、全員が“江戸時代の顔”になったの記念写真！（未だ昭和に未練がある人も？）



以前に皆で深川飯を食べた「福佐屋」

●鬼平犯科帳テレビシリーズ「用心棒」の中での**深川飯**のシーン。

鍋の中でぐつぐつ音を立てる汁の中から、おたまでねぎとアサリをすくい、飯にかけ、それを平蔵にさしだします。「またお頭も、物好きな・・・」「猫殿、これがうまいのだ。昔々な、おやじに勘当されたとき、もう3日3晩飲まず食わずで屋敷の周りをうろつきまわってな。やっとのことで、門番のお袋にこうしてねぎとアサリの**深川飯**をふるまってもらったときのその旨さと言ったらもう・・・」「でも、これはあの、醤油味でないと」「いや何をいうんだい、深川飯は味噌に限る」「いえいえ。なんとおっしゃろうと醤油味でございますよ！」 ※注:「お頭」とは言うまでもなく平蔵。「猫殿」は配下の賄い方同心のこと。互いに譲らない二人を遠くから見ていた奥方が声を掛けたところで、二人の小さな言い争いは終了する。



仙台堀川。仙台藩の蔵屋敷があったことから仙台堀とも。この川に架かる木更木橋には角乗りのレリーフが。



最後の富岡八幡宮に到着。時間はすでに4時近く！



ここには日本一の豪華な神輿が収められていました。

<今日の一言>

俗に「酸いも甘いも噛み分ける」と言いますが、世の中の裏表を知り尽くした鬼平の生き様は、小説の中でまさにこの諺通りの展開を見せています。この日は前回は上回る28名での「江戸まち散歩」となりましたが、古地図が利用できたので、分かりやすいよう地図上にポイントをプラスして配布資料としました。ただ鬼平犯科帳の世界を隈なく訪ねるとなると、短い時間ではとても回りきれません。その上、鬼平ファンでない人には興味がないと思い、「五鉄」跡を主にせめて下町情緒でも感じてもらえたらと、大幅にカットしたコースで歩くことにしましたが、買い物等もあり予定よりもやや時間がかかりました。

普段あまり馴染みのない森下・深川界限ですが、何処となく人の心を和ませてくれる独特の雰囲気がありました。ただし、お土産に立ち寄った店には差があり、店先まで見送りに出てくる店主がある中、声を掛けてもろくに返事もしない店もあって、下町人情とは云われるものの、よそ者には警戒する江戸っ子の気質が残っているようでした。

なお次回は、向島百花園のハギを愛で、旧赤線街から山谷堀跡を遡り、旧吉原大門にかけて探る予定です！

END